

日本のカマキリ

カマキリ科 Mantidae

- ・オオカマキリ属 *Tenodera*・・・3種
- ・ハラビロカマキリ属 *Hierodula*・・・2種
- ・コカマキリ属 *Statilia*・・・3種
- ・ウスバカマキリ属 *Mantis*・・・1種
- ・ナンヨウカマキリ属 *Orthodera*・・・1種

ハナカマキリ科 Hymenopodidae

- ・ヒメカマキリ属 *Acromantis*・・・2種

コブヒナカマキリ科 Gonyptetidae

- ・ヒナカマキリ属 *Amantis*・・・1種

・はじめに

カマキリは直翅目に属する昆虫（ゴキブリ、シロアリなどと合わせて網翅目とする場合や、カマキリのみでカマキリ目とする場合もある。）で、現在世界で約2400種が記載されており、日本からは13種が知られている。

発達した前肢や自由に動く頭部が特徴的であり、それらを生かして獲物となる生物を狩る完全な肉食昆虫である。

Tenodera属

オオカマキリ *Tenodera sinensis* (Saussure,1871)

分布：北海道、本州、四国、九州、北琉球 体長：♂68~90mm ♀75~95mm

草原や林縁に生息する。特にクズなどが繁茂するマント群落に多い。

非常に大きくがっしりとした印象を受けるカマキリ。

同属のチョウセンカマキリやマエモンカマキリとは前脚の基部が薄い黄色であること、下翅が黒紫色であることから区別できる。以前は学名に

Tenodera aridifolia (Stoll,1813)があてられていた。関東では最も一般的なカマキリである。

カマキリ（チョウセンカマキリ） *Tenodera angustipennis* (Saussure,1869)

分布：本州、四国、九州、琉球 体長：♂65~90mm ♀68~92mm

草原や河原、畑、ガマなどの植物が生えた沼地に生息する。前種に比べると細身でやや小さい印象を受ける。同属のオオカマキリやマエモンカマキリとは、前脚の基部がオレンジ色であることから区別できる。

また、下翅は透明である。関東ではオオカマキリと同様、一般的な種であるが近年では生息環境の悪化から減少傾向にあり、当たり前にみられるものでも無なったとの意見もある。奄美大島以南の個体は前胸背板が幅広くなり、「ムナビロカマキリ」と呼ばれる。

マエモンカマキリ *Tenodera fasciata* (Olivier,1792)

分布：琉球（徳之島以南）体長：♂77~101mm ♀93~105mm

面積の広い良質な草原に生息する。

まるでナナフシのような細長さ。日本最長のカマキリ。同属のオオカマキリやチョウセンカマキリとは、前脚の基部が淡い褐色であること、下翅が透明であることから区別できる。

Hierodula属

ハラビロカマキリ *Hierodula patellifera* (Audinet-Serville,1839)

分布：本州、四国、九州、琉球 体長：♂45~65mm ♀52~71mm

樹上性で林縁に生息する。ふっくらとしたフォルムが可愛いカマキリ。

近年、日本に侵入した外来種ムネアカハラビロカマキリと競合し数を減らした地域が多くみられる。ムネアカハラビロカマキリとは、前脚基節のコブ状突起が大きく数が3~4個であること、前胸腹板が薄い黄色であることから区別できる。

先日、大東島から亜種ダイトウハラビロカマキリが記載された。

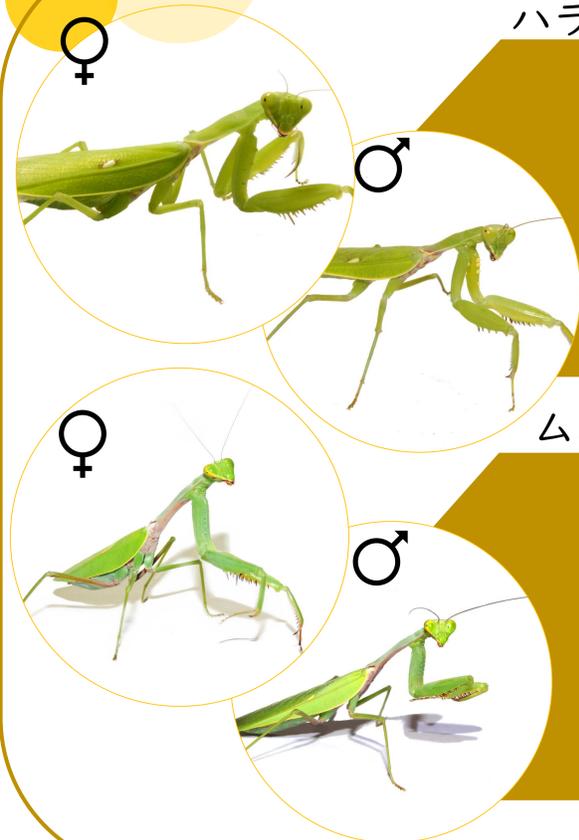
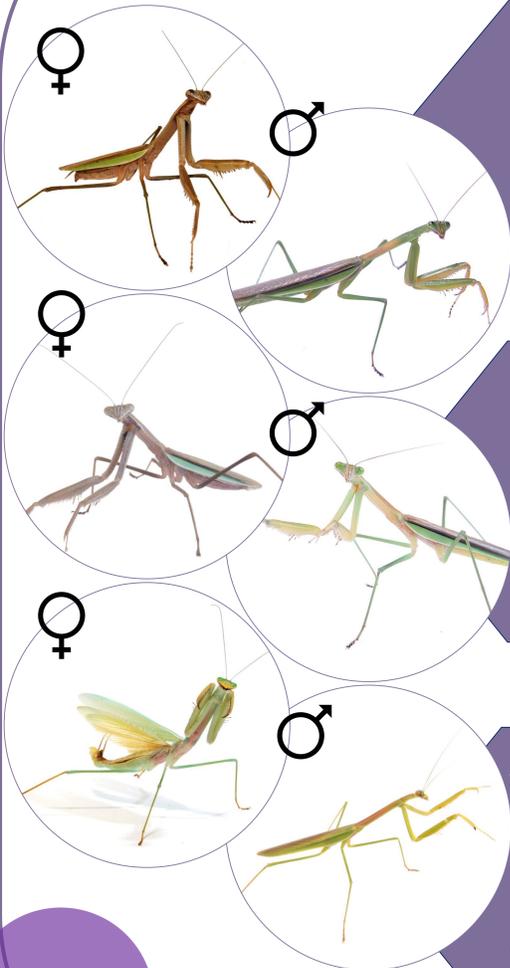
ムネアカハラビロカマキリ *Hierodula* sp. (Audinet-Serville,1839)

分布：本州、九州 体長：♂64~83mm ♀71~80mm

樹上性で林縁に生息する。前種と比べ細長いフォルムでより大型。

近年、日本に侵入し分布域を急速に拡大している。卵鞘が付着した竹ぼうきが輸入されたことが侵入源で中国大陸が原産地と考えられている。

様々な種が正体の候補として提唱されたものの、既知のどの *Hierodula* にも相当せず未だ学名は不詳。ハラビロカマキリとは、前脚基節の突起が小さく数が多いこと、前胸腹板が赤色であることから区別できる。



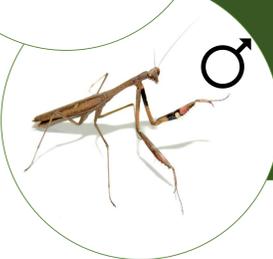
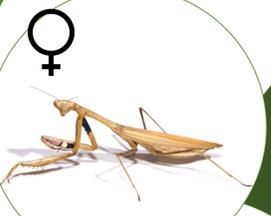
Statilia属

コカマキリ *Statilia maculata* (Thunberg,1784)

分布：本州、四国、九州 体長：♂36～55mm ♀46～63mm

草原、林縁、林内に生息する。

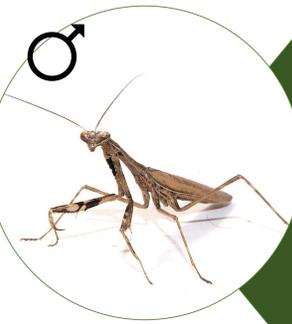
国内では中型種にあたる。まれに緑色型の個体が見られる。緑色型の個体は、ウスバカマキリとよく似る。同属のスジイリコカマキリやヤサガタコカマキリとは「前脚腿節の刺（カマの刺）の基部の斑が一本おきに黒くなる」ことで区別できるが、体色によって変異が生じることが近年わかったため、正確な同定には他の形質も比較する必要がある。



スジイリコカマキリ *Statilia nemoralis* (Saussure,1870)

分布：中琉球、南琉球 体長：♂41～51mm ♀50～57mm

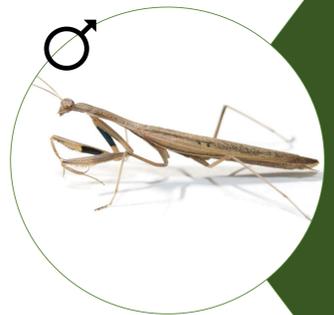
草原、林縁、林内に生息する。国内では中型種にあたる。前種に比べると少し大きく、細長い体格をしている。まれに緑色型の個体が見られる。同属のコカマキリやヤサガタコカマキリとは「前脚腿節の刺（カマの刺）の基部の斑が帯状に黒くなる」ことで区別できる。緑色型の個体では黒斑はつながらないことが多く注意が必要。以前は南琉球でのみで見られていたが、北上し中琉球でも見られるようになった。今後の動向を注視していく必要がある。



ヤサガタコカマキリ *Statilia apicalis* (Saussure,1871)

分布：石垣島、西表島、与那国島 体長：♂36～40mm ♀不明

草原に生息する。前二種に比べるとかなり小さい。日本からは緑色型は未知。非常に珍しいカマキリで、国内からは僅かな採集例しかなく、♀に至ってはたった二個体が採集されたのみである。そのため多くが謎に包まれたカマキリでもある。同属のコカマキリやスジイリコカマキリとは「前脚腿節の刺（カマの刺）の基部の斑が繋がらない」ことで区別できる。



Mantis属

ウスバカマキリ *Mantis religiosa* (Linnaeus,1758)

分布：本州、四国、九州、中琉球、南琉球、（北海道？）

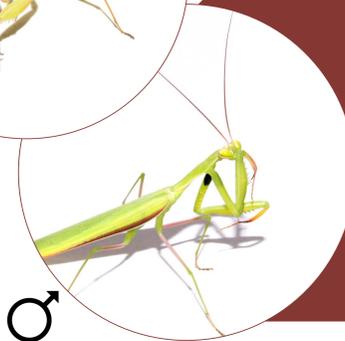
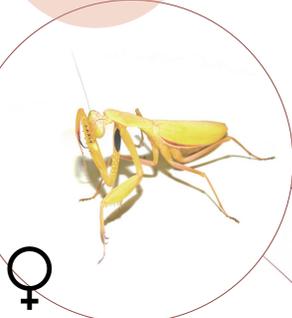
体長：♂52～66mm ♀59～66mm

草丈の低い開けた良質な草原に生息する。国内では中型種にあたる。

緑色型と褐色型、まれに黄金色が見られる。

特異な草原にしか生息せず、日本では珍しい種と言える。しかし、様々な地域に生息する広域分布種であり世界的には最も普遍的でありふれたカマキリと言える。

基節内側に楕円形の黒斑、黒地に白の斑を持つことが特徴。



Orthodera属

ナンヨウカマキリ *Orthodera ministralis* (Fabricius,1775)

No image

分布：小笠原諸島 体長：♂36mm ♀40mm
中型種。オーストラリアを原産とする外来種で、第二次大戦後に物資に紛れて移入したと考えられている。外来種ではあるものの、生息地が世界自然遺産であり許可なく採集活動が行えず、入手は実質不可能である。こうした状況のためやはり謎が多い種でもある。

Acromantis属

ヒメカマキリ *Acromantis japonica* (Westwood,1889)

分布：本州、四国、九州 体長：♂25~32mm ♀25~31mm
林内や林縁に生息する。国内では小型種にあたる。すばしっこいだけでなく擬死することもある。関東では見つけることは困難だが、西日本では比較的普通にみられる種のようなのである。次種とは異なり卵で越冬し、晩夏~秋にかけて羽化し成虫となる。中・後脚のヒレ状の突起はあまり発達せず、前翅の斜めの脈はやや屈曲する。

サツマヒメカマキリ *Acromantis satsumensis* (Matsumura,1913)

分布：本州西部、四国、九州、琉球 体長：♂29~34mm ♀30~36mm
林内や林縁に生息する。国内では小型種にあたる。すばしっこいだけでなく擬死することもある。静岡県以西に生息する。前種とは異なり幼虫で越冬し、初夏から羽化し初めて成虫となる。中・後脚のヒレ状の突起は少し発達し、前翅の斜めの脈はあまり屈曲しない。

Amantis属

ヒナカマキリ *Amantis nawai* (Shiraki,1908)

分布：本州、四国、九州、琉球 体長：♂12~15mm ♀13~18mm
湿った照葉樹林の林床に生息する。国内では最も小さいカマキリで短翅が特徴的な種である。国内からは長翅型は未知であるが台湾をはじめとした海外では長翅型が得られるようだ。近年の分類学的な整理で、カマキリ科からコブヒナカマキリ科へと所属が変更された。実は模式標本の産地は東京、静岡である。